

ような気がしてならない。

雨ふれば

雨をたのしみ

晴るる日は

晴れを

たのしむ

楽しみある

ところに

たのしみ

楽しみなき

ところにも

たのしむ

皆楽堂主人書

花を惜む

福沢 諭吉

半生の行路 苦辛の身

幾度か春を迎え還春を送る

節物は忽々として留むれども止まず

花を惜しむ人は是れ霜を戴くの人

短歌

岩田 トヨ子

(会員・佐伯市長良)

去年咲きし梅の古木の花待てど今年は咲かず枯れに
しものか

谷川の水かるるとも石菖は昔の如くおい茂りける

戦いに四人の子供しいぬ涙かみしめたえし母上

国のため陛下のためと言いつつも年令老いし母は
仏壇に祈る

四人の子を戦に奮われし老いし母の深き悲しみ誰か
知るべき

戦より帰りし人を見るにつけ帰らぬ四人の弟を想う

(註) 皆楽堂は米田先生

詩は吉川英治の文中から

原文作者不明